

# 光星、打撃中心に調整

## あす明桜（秋田）と初戦

第105回全国高校野球選手権の本県代表の八学光星は10日、大阪府豊中市の豊中ローズ球場で練習を行った。選手たちは、初戦（12日・午前8時開始）のノースアジア大明桜（秋田）戦に向け、午前9時から約2時間、汗を流した。（25面参照）



明桜投手陣を想定した打撃投手を相手に快音を響かせた八学光星の選手たち。10日午前、大阪府豊中市の豊中ローズ球場

認。残り明桜の右腕難波や加藤悠、左腕松橋裕を想定した打撃練習に時間を割いた。仲井宗基監督は、バットを出す角度についてアドバイス。「力んだときほどバットが下がって（スイングして）しまっ。意識して打て」と声をかけられた選手たちは、左右の打撃投手相手に何度も柵越えの快音を響かせていた。

投手陣もブルペンで30球ほど投げて調整を行った。直球のほか、カーブ、スライダー、チェンジアップ、カットボールの四つの変化球を満遍なく投

げた主戦洗平（2年）は「チェンジアップが抜けてしまっことが多いので、低めに集めることを意識して投じた。調子は上がってきているので、チームの勝利につながるピッチングをしたい」と意気込んだ。11日も朝から兵庫県伊丹市の伊丹スポーツセンターで、初戦前の最終調整を行う。（棟方好華）

### 光星 甲子園だより

おおかわ みなみ 大川 駿海 内野手（3年）



駿海という名前は、野球好きの父が「男で『みなみ』なら珍しくてカッコいい」と、人気漫画「タ

### 「美しい」守備武器に

タッチのヒロイン浅倉南から取った。午前8時開始の初戦に向け、ここ最近朝4時起ききの生活。弘前市出身だが「めっちゃ眠いです」と関西弁で話す姿はあどけない。甲子園では、仲間から「美しい」と一目置かれる守備を武器に「支えてくれた家族や、地元の仲間」に恩返しをしたい。（弘前四中出身、174センチ、72キロ。右投げ右打ち）